

7 学生の確保の見通し等を記載した書類（本文）

目 次

- (1) 新設組織の概要
 - ① 新設組織の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
 - ② 新設組織の特色・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

- (2) 人材需要の社会的な動向等
 - ① 新設組織で養成する人材の全国的，地域的，社会的動向の分析・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
 - ② 中長期的な 18 歳人口等入学対象人口の全国的，地域的動向の分析・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
 - ③ 新設組織の主な学生募集地域・・・・・・・・・・ 2
 - ④ 既設組織の定員充足の状況・・・・・・・・・・ 2

- (3) 学生確保の見通し
 - ① 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果・・・ 3
 - ② 競合校の状況分析・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
 - ③ 先行事例分析・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
 - ④ 学生確保に関するアンケート調査・・・・・・・・・・ 6
 - ⑤ 人材需要に関するアンケート調査等・・・・・・・・・・ 6

- (4) 新設組織の定員設定の理由・・・・・・・・・・ 7

(1) 新設組織の概要

① 新設組織の概要

(表1) 新設組織の概要

新設組織	入学定員	収容定員	所在地
愛知医科大学看護学 研究科博士後期課程	4	12	愛知県長久手市岩作雁又 1 番地 1

② 新設組織の特色

今日の未知の知や技術，新しい価値等の創造が求められる知識基盤社会において，「専門的かつ高度な研究遂行能力を有する自立した研究者並びに高度な看護実践能力と高い研究・管理能力を有する臨床現場の変革者を養成すること」を目的に，「看護学研究者として自立して研究活動を行うための高度な研究能力とその基盤となる豊かな学識を，また，看護実践の探究者としての高度な実践能力とそれを裏づける豊かな学識を培うことを通して，看護学・看護実践の発展に寄与すること」を，本学博士後期課程の教育理念とする。

この理念の下に，本学博士後期課程においては，看護学の学術的発展に貢献できる研究者・教育者となる人材を養成する「(学術) 看護学博士 (PhD (Doctor of Philosophy in Nursing) コース)」と，高度看護の実践者・管理者となる人材を養成する「(実践) 看護学博士 (DNP (Doctor of Nursing Practice) コース)」を設置する。

既存の愛知医科大学看護学研究科修士課程を愛知医科大学看護学研究科博士前期課程とする。収容定員の変更はしない。

(表2) 愛知医科大学看護学研究科博士後期課程の概要

組織名	入学定員	収容定員	所在地
愛知医科大学看護学 研究科博士前期課程	15	30	愛知県長久手市岩作雁又 1 番地 1

(2) 人材需要の社会的な動向等

① 新設組織で養成する人材の全国的，地域的，社会的動向の分析

現在，本学が位置する愛知県下における大学院博士後期課程の状況では，国公立系大学3校のすべてが博士後期課程を有しているが，私立大学13校のうち大学院博士後期課程は2校においてのみ設置されている。また，日本看護系大学協議会の会員校をブロック別にみると，本学は中部ブロックに属するが，生活圏としては関西・近畿ブロックに近く，そこでは21校が大学院博士後期課程を有しているが，そのうちの10課程が大阪府と兵庫県に偏在している。また，これら愛知県及び関

西・近畿ブロックの26の博士後期課程にはDNPコースは存在せず、今日我が国におけるDNPコースは東日本の2大学においてのみ設置されている。

本学は、2004（平成16）年に大学院修士課程を開設以来今日まで、修士論文コース118名に加え、CNSコース15名、NPコース37名の修了生を輩出してきたが、特にCNSやNPとなった高度実践看護者たちの更なる学びの場であるDNPコースが、近隣には存在しない。博士後期課程進学を望む人たちの多くは、教育・臨床・管理の場でそれぞれ重要な役割を担っている人たちであることから、職務の継続と学修の場として、特に、DNPコースを含む博士後期課程の設置が本学に望まれる。

② 中長期的な18歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

我が国は超高齢化・少子化社会といわれて久しい。厚生労働省の資料によれば、2007（平成19）年に高齢化率が21%を超えて超高齢社会になったとある。令和5年版高齢社会白書では65歳以上の人口は、総人口の29%であることを示している。また、「団塊の世代」が75歳以上になる2025年問題を目前にした今日、高齢者らの医療ニーズへの対応をはじめ、認知症高齢者や重度の要介護者の増加など、人々の保健医療福祉への需要はさらに増大し、多様・複雑になることは確実である。その2025（令和7）年を目途に、厚生労働省は高齢者の尊厳の保持と自立生活を支援するために、可能な限り住み慣れた地域で自分らしい生活を最期まで送れるように、地域の包括的な支援・サービスの提供体制（地域包括ケアシステム）の構築を推進している。こうした高齢者をはじめ、人々の誕生から死へまでのあらゆる年代のあらゆる健康状態の人々を対象にする看護が、特に今日の超高齢社会という劇的に変化し続ける社会状況に対応するためには、修士課程において高められた専門性に加えて、常に新たな看護のあり方を探求し創造していくための、博士後期課程の設置は不可欠である。

③ 新設組織の主な学生募集地域

既設の本学修士課程では、入学してくる学生のほとんどが社会人であり、修了後は、そのまま在職中の職場に戻り実務についている。特に、博士後期課程に入学を希望する者の多くは、看護系大学・看護専門学校の教員や、医療福祉施設等の熟練実践家や管理者などの専門職業人であることが予測される。

社会人として勤務しながらの就学となることが予測されるため、主な学生募集地域は東海地区（愛知・岐阜・三重）となるが、関西・近畿ブロックからの受験希望者も相当数あると想定している。

④ 既設組織の定員充足の状況

既設の本学修士課程の定員は15名である。直近5年間の志願者数、合格者数、

入学者数は以下の通りである。15名の定員に対し、過去5年間の実績として13名から15名と安定的に定員を充足している。

(表3) 愛知医科大学看護学研究科修士課程の過去5年間の志願者数・合格者数・入学者数

年度	志願者数	合格者数	入学者数
令和元年度	32	15	15
令和2年度	22	14	14
令和3年度	37	15	13
令和4年度	32	13	13
令和5年度	26	15	15

(3) 学生確保の見通し

① 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

ア 既設組織における取組とその目標

本学修士課程におけるPR活動は、本学ホームページ及び情報誌への情報掲載や、本学部卒業生・本学大学病院・近隣大学・近隣病院並びに資料請求者へ、パンフレット等を送付している。

また、募集活動期においては、対面及びZoomによる入試説明会を数回開催している。全国各地から数多くの受験希望者が参加しており、その後の出願に繋がっている。

(表4) 愛知医科大学看護学研究科修士課程の入試説明会参加者数

年度	参加者数	うち志願者数
令和3年度	42	37
令和4年度	52	32
令和5年度	45	26

イ 新設組織における取組とその目標

本学修士課程の在学学生及び修了生並びに愛知医科大学病院の看護部の協力を得て、看護師の修士課程修了者には、アンケート調査時に博士後期課程の設置準備を進めていることを説明、周知している。当調査における自由記述においては、本学博士後期課程設置構想に対し、肯定的な意見等が多数寄せられている。これは本学博士後期課程が設置されることへの期待の表れだと捉えている。

本学修士課程の在学学生に対しては、あらためて本学博士後期課程について説明し、興味・関心を持ってもらうように勧めていく。また、本学ホームページ、本学同窓会誌等を活用し、広く周知することとする。

ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数

上記の本学博士後期課程設置に伴うアンケート調査において、本学博士後期課

程が開設されたら受験を希望をするかとの質問に対し、「受験したい」が5名、「受験を検討したい」が26名と合計31名が受験を希望している結果から本学博士後期課程の定員数4名の確保においては問題ないことが確認された。

② 競合校の状況分析

ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析，優位性

愛知県下の看護系私立大学のうち、博士後期課程を設置している2校で本学と競合が考えられるのが、愛知県岡崎市にある人間環境大学である。

本学博士後期課程においては、看護学の学術的発展に貢献できる研究者・教育者となる人材を養成する PhD (Doctor of Philosophy in Nursing) コースと、高度看護の実践者・管理者となる人材を養成する DNP (Doctor of Nursing Practice) コースを設置する。DNP (Doctor of Nursing Practice) コースは全国的にも現在2校 (北里大学, 聖路加国際大学) のみで、令和6年度開設予定の国際医療福祉大学を含めても3校のみである。本学博士後期課程の DNP (Doctor of Nursing Practice) コースは4校目となり、西日本では最初の開講となり、人間環境大学にはない教育を展開できると想定している。

イ 競合校の入学志望動向等

人間環境大学の博士後期課程の定員は8名で過去3年間の入学者数は下記の表のように、定員の半数程度とそれほど多くはない状況である。(令和2年度, 3年度の志願者数及び合格者数は情報提供がないため不明)

しかし、本学博士後期課程設置に係るアンケート調査結果では、回答者73名中、「進学を希望している」が11名(15%),「進学に興味がある」が27名(37%)と合計38名から進学する意向がある回答を考慮すると博士後期課程の入学志望の数は必ずしも少なくないと考えられ、本学博士後期課程開設への期待する意見もあることから定員の充足は可能と想定している。

(表5) 人間環境大学博士後期課程の過去3年間の志願者数・合格者数・入学者数

年度	志願者数	合格者数	入学者数
令和2年度	—	—	4
令和3年度	—	—	4
令和4年度	6	5	5

ウ 新設組織において定員を充足できる根拠等

DNP (Doctor of Nursing Practice) コースは、西日本では最初の開設校となり、関西・近畿ブロックからの受験希望者も相当数あると想定される。

また、アンケート調査において、本学博士後期課程のどの分野に関心があるかとの質問に対し、「研究者コース (PhD)」「看護実践コース (DNP)」ともに20件の回

答があり、DNP (Doctor of Nursing Practice) コースのみならず、PhD (Doctor of Philosophy in Nursing) コースにも同様の関心があることが確認された。

エ 学生納付金等の金額設定の理由

本学博士後期課程の学生納付金は、次のとおり設定している。

(表6) 本学博士後期課程の学生納付金

入学金	授業料 (年額)	実験実習費 (年額)	教育充実費 (年額)
300,000	600,000	0	100,000

本学の授業料は、近隣他大学の中でも低く設定し、就学者の金銭的負担を減らすことで、入学へのハードルを下げ、就学への意欲を高めることを図っている。入学金は、本学修士課程と同額としている。

(表7) 本学修士課程及び近隣他大学の入学金・授業料等

学校名	課程	入学金	授業料	実験実習費	教育充実費
愛知医科大学 看護研究科	修士論文コース	300,000	600,000	0	100,000
	高度実践看護師 (専門看護師[CNS] コース)	300,000	600,000	50,000	100,000
	高度実践看護師 (診療看護師[NP] コース)	300,000	600,000	100,000	100,000
日本赤十字豊 田看護大学大 学院	博士後期課程	400,000	800,000	300,000	
人間環境大学 看護学研究科	博士後期課程	200,000	950,000	0	

③ 先行事例分析

本学博士後期課程においては、看護学の学術的発展に貢献できる研究者・教育者となる人材を養成する「(学術)看護学博士(PhD (Doctor of Philosophy in Nursing) コース)」と、高度看護の実践者・管理者となる人材を養成する「(実践)看護学博士(DNP (Doctor of Nursing Practice) コース)」を同時に設置することを想定している。DNP (Doctor of Nursing Practice) コースを既に設置している2校(北里大学、聖路加国際大学)については、博士後期課程として既存のPhD (Doctor of Philosophy in Nursing) コースに追加する形で設置されている。2コースを同時に設置するのは全国的にも初めての試みであるが、既設の2校へのヒアリング調査を含めた上で実現可能であると考えられる。

④ 学生確保に関するアンケート調査

本学博士後期課程の設置にあたり、学生の確保の見通しを立てるために、令和5年12月19日（火）から12月28日（木）にアンケート調査を実施した。調査の方法は、本学修士課程の在学学生及び修了生並びに愛知医科大学病院の看護部の協力を得て、看護師の修士修了者を対象に、アンケート調査を依頼し、インターネット上で進学意向調査を行った。

アンケート調査対象者は282名で、73名から回答（回答率25.8%）を得た。（有効回答率（100%））

本学博士後期課程が開設されたら受験を希望をするかとの質問に対し、「受験したい」が5名、「受験を検討したい」が26名と合計31名が受験を希望している結果が確認された。

⑤ 人材需要に関するアンケート調査等

本学博士後期課程の設置にあたり、人材需要の見通しを立てるために、令和6年2月1日（木）から2月16日（金）にアンケート調査を実施した。調査の方法は、愛知県・岐阜県・三重県の東海3県の300床以上の病院及び看護系大学を対象に依頼し、インターネット上で人材需要の調査を行った。

アンケート調査対象は病院110施設及び28大学の合計138施設で、41施設から回答（回答率29.7%）を得た。（有効回答率（100%））

本学博士後期課程を卒業した人材を採用したいかとの質問に対し、「採用したい」が12施設（29%）、「採用を検討したい」が17施設（41%）と合計29施設が採用を希望あるいは検討している結果が確認された。また、本学博士後期課程が要請する人材がこれからの社会にとって必要かとの質問に対し、「とても必要だと思う」が9施設（22%）、「必要だと思う」が25施設（61%）と合計34施設から肯定的な回答を得た。

看護には、従来の医療機関で提供される保健・医療にかかわる知識・技術に加えて、地域社会における、保健医療福祉の諸専門職者との連携・協働が求められている。連携・協働においては、それぞれの専門性が深化すればするほど、看護の専門性・独自性も問われてくる。そのためには、修士課程で培った自らの専門性を、さらに深めることが必然的に求められている。また、社会システムの構築や変革への関与の必要性など、従来の看護学教育にはなかった新たな知識・技術の必要性から、博士後期課程を修了した人材が求められる。

一方、2015（平成27）年に中央教育審議会が出した「未来を牽引する大学院教育改革～社会と共同した「知のプロフェッショナル」の育成～」によると、今日の社会を「未知の知や技術、新しい価値等の想像が成長の基盤となる知識基盤社会」としているが、これはまさに、今日の看護を取り巻く状況を示している。す

なわち、世界に先駆けた超高齢社会に突入して以来、看護には「未知の知や技術、新しい価値観等」が求められているからである。また、同報告書が「医療系分野の大学院教育の在り方」において指摘するように、国民が求める質の高い医療人の養成には、国際的な動向を踏まえ修士・博士後期課程の充実が必要である。

博士後期課程においては、看護学教育をリードするアメリカ合衆国において近年、DNPプログラムの増加傾向が顕著であり、2010年のDNPプログラム数が156であったのが2021年には394と、この10年間で倍以上になっている。また、NP教育をリードしている全米NP教育協会（NONFP）は、NP教育は2025年までに博士後期課程で行うことを要求している（AACN看護実践教育の博士に関する声明、2022）。

これらの指摘を具現化し、変わりゆく社会状況に対応できる高度の実践家・研究者・管理者を育成していくことが、本学に博士後期課程設置を必要とする理由である。また、多くの者は、看護系大学・看護専門学校の教員や、医療福祉施設等の熟練実践家や管理者などの専門職業人であることが予測され、本学博士後期課程設置に係るアンケート調査結果では、本学博士後期課程卒業後の進路について、回答者31名中、「現職に復帰」が17名（55%）と半数以上が現職復帰を希望していることが確認された。

（４）新設組織の定員設定の理由

本学博士後期課程はPhDコースとDNPコースとも修業年限は3年であり、入学定員は両コース合わせて4名とし、収容定員は12名である。コース別に入学定員枠を定めないのであるのは、年度ごとの入学希望者の専攻希望を尊重するためである。

この定員設定は、十分な研究、教育指導を可能とするための教育体制を整えるとともに研究指導教員数（18人予定）と学生数とのバランスを考慮したものである。

愛知医科大学が開設以来目指している地域医療に貢献する医師の養成と同様に、看護学部も地域社会に貢献できる看護職を育成してきた。今日2022（令和4）年度までの卒業生は2,090名となり、そのうちの90%以上が愛知県下に就職している。具体的には、過去5年間では、94名/102名中、78名/90名中、92名/96名中、89名/94名中、82名/95名中であり、多いときには96%の卒業生が愛知県下の病院に就職している。そのうちの大多数が本学病院に就職しており、近年では、卒業生の66～76%が本学病院に就職するなど増加傾向を示している。

また、本学修士課程開設以来、今日2022（令和4）年度まで修了生は論文コース118名、専門看護師[CNS]コースは15名、診療看護師[NP]コースは37名、合計170名の修了生を輩出している。2004（平成16）年に開始された論文コースに加えて、2008（平成20）年から感染症看護専門看護師[CNS]コースが開講され、2011（平成23）

年に開講した急性・重症患者専門看護師コースが、医療状況の変化に応じて現在の診療看護師 [NP] コースとなった。これらの修了生たちは、多彩な修士論文・課題研究に取り組み、自らの実践領域の専門性を高め、看護実践の質向上に活かす基盤を学修している。

本学博士後期課程の定員は、修士課程の入学定員数及び進学ニーズを考慮し、適切な定員設定であると考えている。本学博士後期課程設置に係るアンケート調査結果では、回答者 73 名中、「進学を希望している」が 11 名 (15%)、「進学に興味がある」が 27 名 (37%) と合計 38 名から進学する意向がある回答を得た。また、本学博士後期課程が開設されたら受験を希望するかとの質問に対し、回答者 51 名中、「受験したい」が 5 名 (10%)、「受験を検討したい」が 26 名 (51%) と合計 31 名が受験を希望している結果から本学博士後期課程の定員の確保においては問題ないことが確認された。

8 学生の確保の見通し等を記載した書類（資料）

目 次

- 【資料1】愛知医科大学大学院 看護学研究科博士後期課程（設置構
想中）に係るアンケート調査結果（令和5年12月実施）
- 【資料2】愛知医科大学大学院 看護学研究科博士後期課程（設置構
想中）に係るアンケート調査結果（看護系大学・病院対象）
（令和6年2月実施）
- 【資料3】愛知医科大学大学院 看護学研究科博士後期課程（設置構
想中）に係るアンケート調査（依頼）
- 【資料4】愛知医科大学看護学研究科博士後期課程（設置構想中）に
係るアンケート調査の実施について（看護系大学，病院施
設対象）（依頼）

愛知医科大学大学院 看護学研究科博士後期課程（設置構想中）に係るアンケート調査結果 （令和5年12月実施）

1.調査の概要

1.調査の目的

本調査は愛知医科大学（以下、本学）において、博士後期課程の開設にあたり、特に高度実践看護学コース（DNP）の開設について、本学大学院研究科在学生及び本学卒業生等に需要を調査することで、本学博士後期課程開設の必要性を確認し、実証することを目的として実施するものです。

2.調査の時期

令和5年12月19日（火）から12月28日（木）

3.調査対象

本学大学院看護学研究科（修士課程）在学生、本学大学院看護学研究科（修士課程）修了生、愛知医科大学看護学部同窓会等

4.調査方法

インターネット調査（Googleフォームを活用し、専用QRコードより読み込み回答）

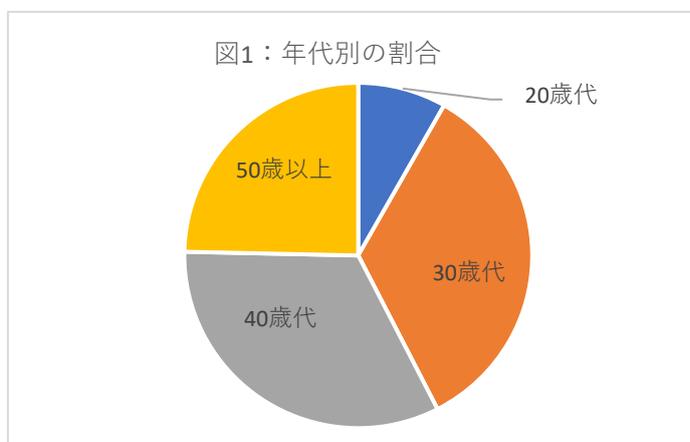
5.回収状況

有効回答数 73名、回収率は25.8%であった。

問1.あなたの年齢を教えてください。（あてはまるもの1つにチェックしてください）

表1：年代別 n = 73

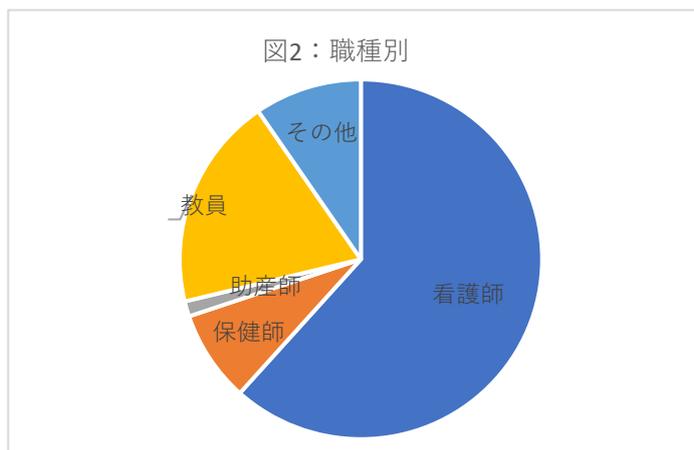
1.20歳代	6	8%
2.30歳代	25	34%
3.40歳代	24	33%
4.50歳以上	18	25%
総計	73	100%



問2.あなたの現在の職種を教えてください。（あてはまるもの1つにチェックしてください）

表2：職種別 n = 73

1.看護師	45	62%
2.保健師	6	8%
3.助産師	1	1%
4.教員	14	19%
5.その他	7	10%
総計	73	100%

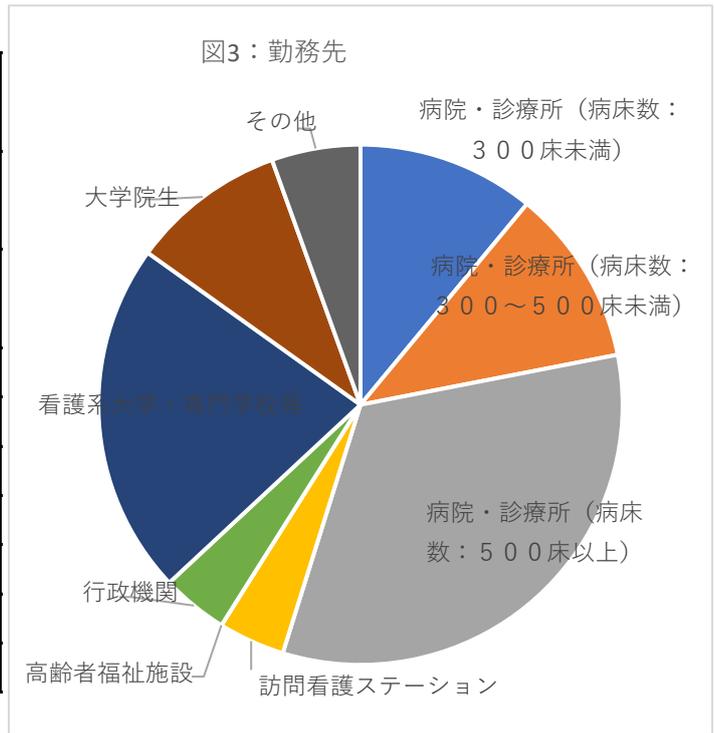


問3.あなたが現在勤務している職場を教えてください。

(あてはまるもの1つにチェックしてください)

表3：勤務先 n = 73

1.病院・診療所（病床数：300床未満）	8	11%
2.病院・診療所（病床数：300～500床未満）	8	11%
3.病院・診療所（病床数：500床以上）	24	33%
4.訪問看護ステーション	3	4%
5.高齢者福祉施設	0	0%
6.行政機関	3	4%
7.看護系大学・専門学校等	16	22%
8.大学院生	7	10%
9.その他	4	5%
総計	73	100%

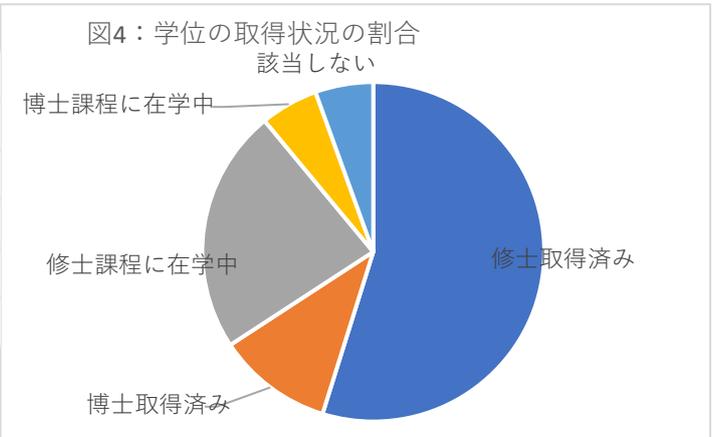


問4.あなたの取得している学位について教えてください。

(あてはまるもの1つにチェックしてください)

表4：学位の取得状況 n = 73

1.修士取得済み	40	55%
2.博士取得済み	8	11%
3.修士課程に在学中	17	23%
4.博士課程に在学中	4	5%
5.該当しない	4	5%
総計	73	100%

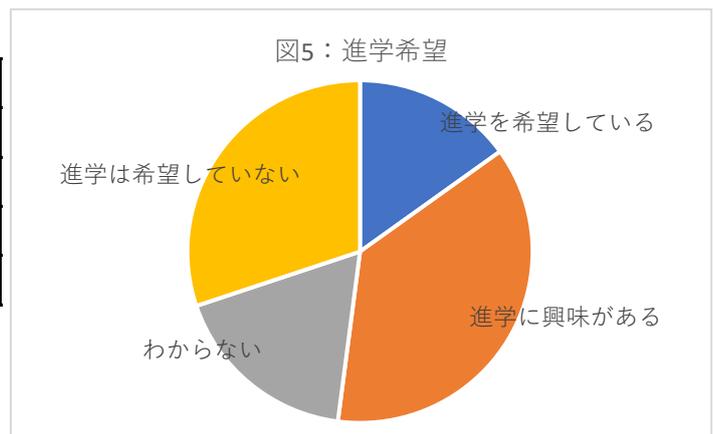


問5.あなたは大学院博士後期課程への進学を希望していますか。

(あてはまるもの1つにチェックしてください)

表5：進学希望 n = 73

1.進学を希望している	11	15%
2.進学に興味がある	27	37%
3.わからない	13	18%
4.進学は希望していない	22	30%
総計	73	100%

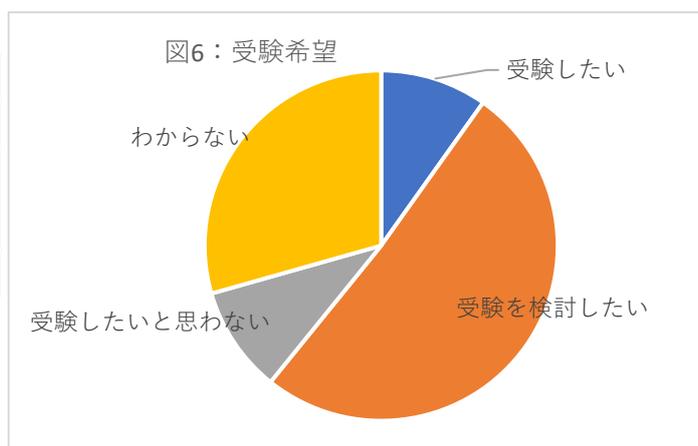


問6.あなたは本学大学院博士後期課程が開設されれば、受験を希望しますか。

(あてはまるもの1つにチェックしてください)

表6：受験希望 n = 51

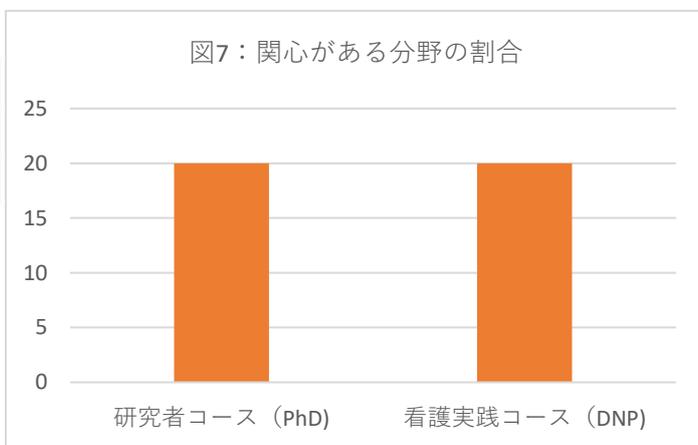
1.受験したい	5	10%
2.受験を検討したい	26	51%
3.受験したいと思わない	5	10%
4.わからない	15	29%
総計	51	100%



問7.本学大学院博士後期課程のどの分野に関心がありますか。(複数回答可)

表7：関心がある分野 n = 40

研究者コース (PhD)	20	50%
看護実践コース (DNP)	20	50%
総計	40	100%

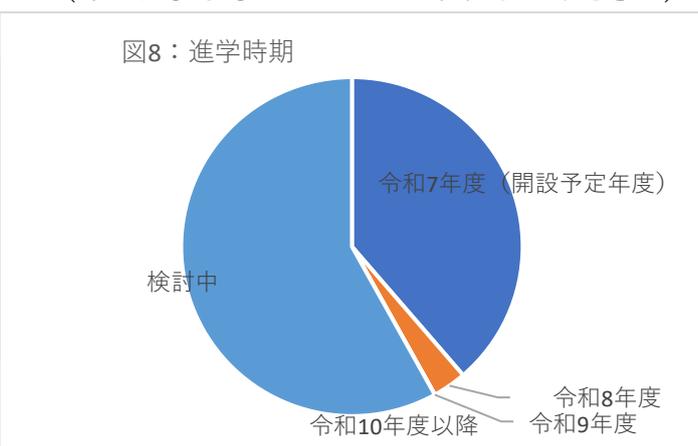


問8.本学大学院の博士後期課程 (設置構想中) への進学時期は、いつ頃を考えていますか。

(あてはまるもの1つにチェックしてください)

表8：進学時期 n = 31

1.令和7年度 (開設予定年度)	12	39%
2.令和8年度	1	3%
3.令和9年度	0	0%
4.令和10年度以降	0	0%
5.検討中	18	58%
総計	31	100%

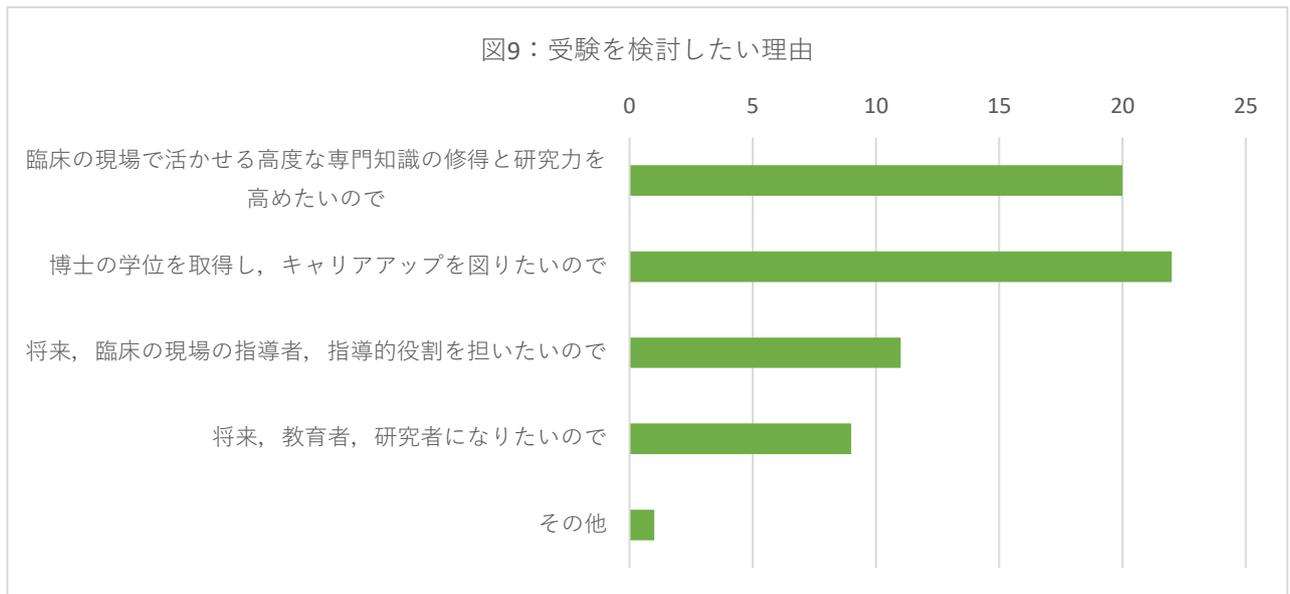


問9.本学大学院の博士後期課程（設置構想中）に受験する，もしくは受験を検討したいと回答した理由は何ですか。（複数回答可）

表9：受験を検討した理由

n = 63

臨床の現場で活かせる高度な専門知識の修得と研究力を高めたいので	20	32%
博士の学位を取得し，キャリアアップを図りたいので	22	35%
将来，臨床の現場の指導者，指導的役割を担いたいので	11	17%
将来，教育者，研究者になりたいので	9	14%
その他	1	2%
総計	63	100%

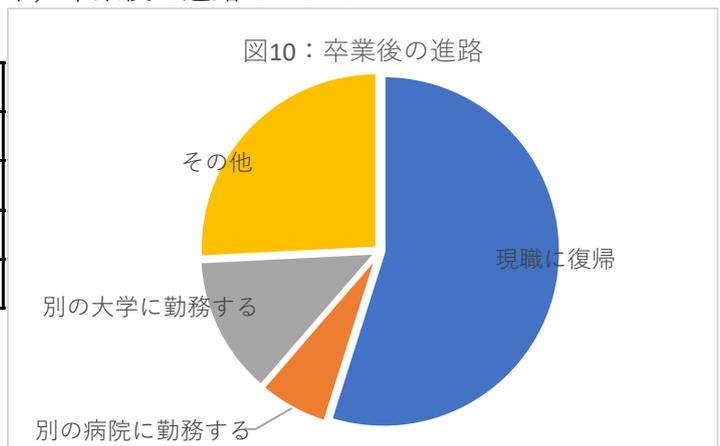


問10.本学大学院の博士後期課程（設置構想中）卒業後の進路について

表10：卒業後の進路

n = 31

1.現職に復帰	17	55%
2.別の病院に勤務する	2	6%
3.別の大学に勤務する	4	13%
4.その他	8	26%
総計	31	100%



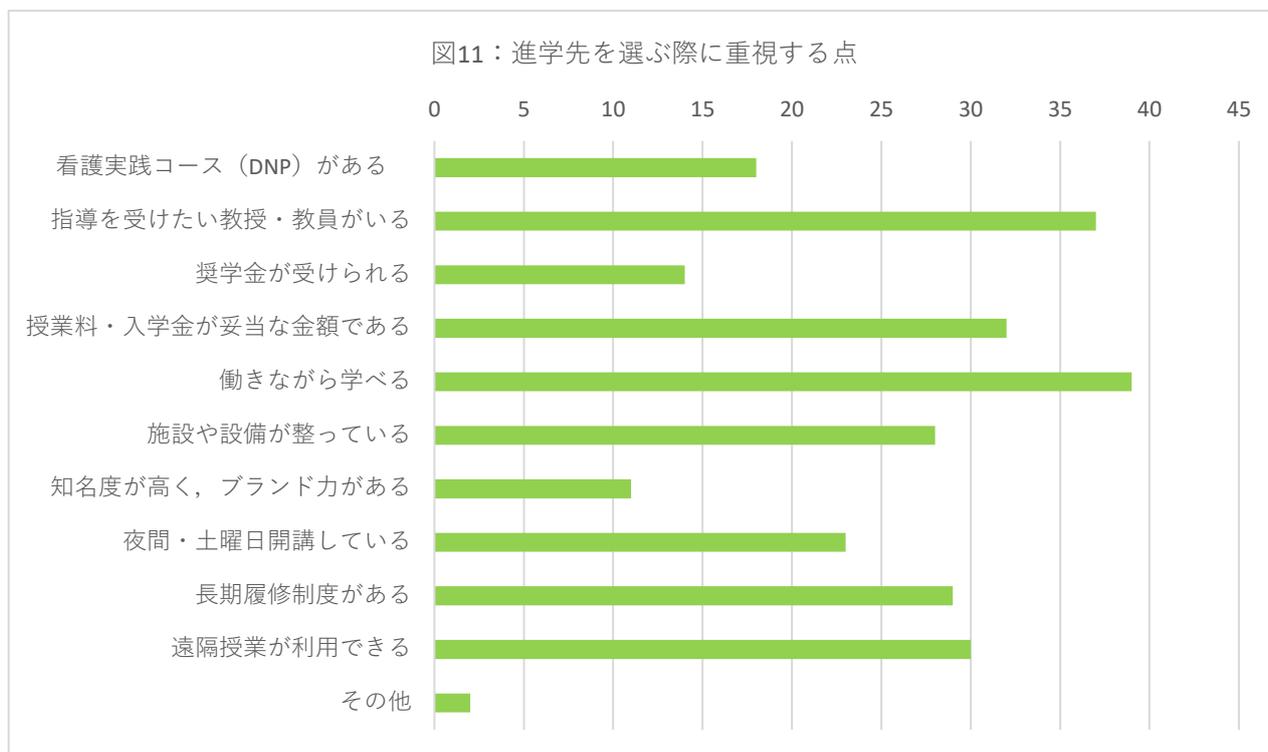
問11.進学先を選ぶ際に重視する点を教えてください。（複数回答可）

表11：進学先を選ぶ際に重視する点

n = 263

看護実践コース（DNP）がある	18	7%
指導を受けたい教授・教員がいる	37	14%
奨学金が受けられる	14	5%
授業料・入学金が妥当な金額である	32	12%
働きながら学べる	39	15%
施設や設備が整っている	28	11%
知名度が高く、ブランド力がある	11	4%
夜間・土曜日開講している	23	9%
長期履修制度がある	29	11%
遠隔授業が利用できる	30	11%
その他	2	1%
総計	263	100%

図11：進学先を選ぶ際に重視する点



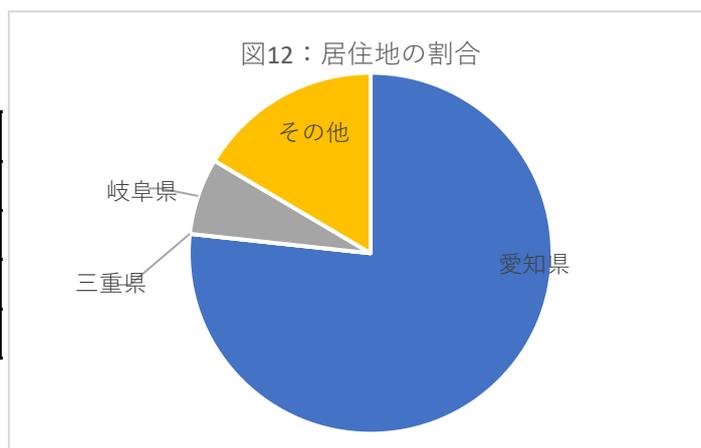
問12.居住地

表12：居住地

n = 73

1.愛知県	56	77%
2.三重県	0	0%
3.岐阜県	5	7%
4.その他	12	16%
総計	73	100%

図12：居住地の割合



問13.本博士後期課程開設にあたり、ご意見、ご要望があれば自由にお書きください。

- ・愛知医大ならではのDNPコースの利点が何かあると受験する可能性は考えられます。
- ・より高度な内容をわかりやすく、実践に役立ち、未来につながる内容が学べる環境があると良いと思います。
- ・母校に博士課程が開設されること、嬉しく思います。
- ・進学まではしないが、科目履修のようなものがあれば受けてみたい。
- ・具体的なビジョン、カリキュラムに興味がある
- ・将来的には後期課程進学を視野に検討したいと考えるが、現時点では自分自身のキャリアビジョンやワークライフバランスを踏まえ進学は難しい。
- ・可能であれば、本学卒業生へは入学金等の減額を検討してほしい。
- ・博士後期課程でのカリキュラム等のイメージがなかなか湧きづらいため、説明会等があれば参加したいと考える。
- ・DNPコースは診療看護師のためのもの、と以前耳にしました。他の大学では、例えば看護管理や地域などで活躍される方がDNPコースに通う例があります。愛知医科大学のDNPコースも診療看護師に限らず多様な働き方をしている人が集まるとよいのではないかと思います。
- ・DNPに進むことに現実性がもてます。ありがとうございます。
- ・指導教員が誰になるかがとても重要なので、早めに提示されると受験するか検討しやすいです。
- ・来年度から貴学看護学研究科修士課程へ進学します。大学教員を目指しており、修士課程卒業後は博士課程への進学も目指しております。NPに関わるコースだけではなく、様々なコースも充実させて頂けることを期待します。

愛知医科大学大学院 看護学研究科博士後期課程（設置構想中）に係るアンケート調査結果 （看護系大学・病院対象）（令和6年2月実施）

1.調査の概要

1.調査の目的

愛知医科大学（以下、本学）では看護学研究科に博士後期課程として、研究者コース（PhD）に加えて、高度実践看護学コース（DNP）の設置を構想しています。本学では貴職における人材需要についての率直な考えをお聞きし、大学院看護学研究科博士後期課程の開設の際には、広く看護職者や看護教員を大学院生として受け入れたいと考えています。

2.調査の時期

令和6年2月1日（木）から2月16日（金）

3.調査対象

愛知県・三重県・岐阜県の看護系大学および病院施設

4.調査方法

インターネット調査（Googleフォームを活用し、専用QRコードより読み込み回答）

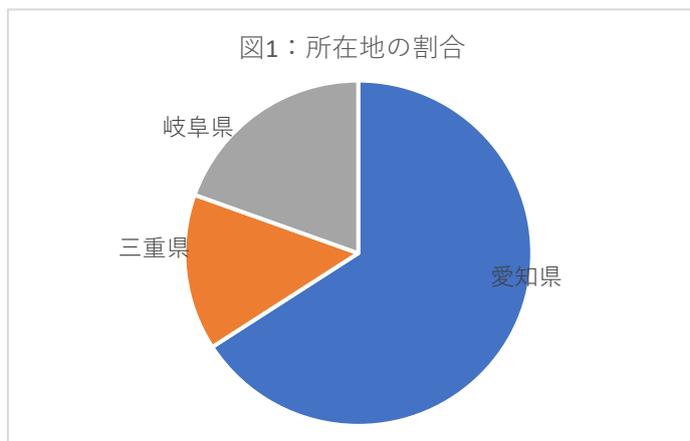
5.回収状況

有効回答数41件、回収率は29.7%であった。

問1.貴機関の所在地をお答えください。（あてはまるもの1つにチェックしてください）

表1：所在地 n = 41

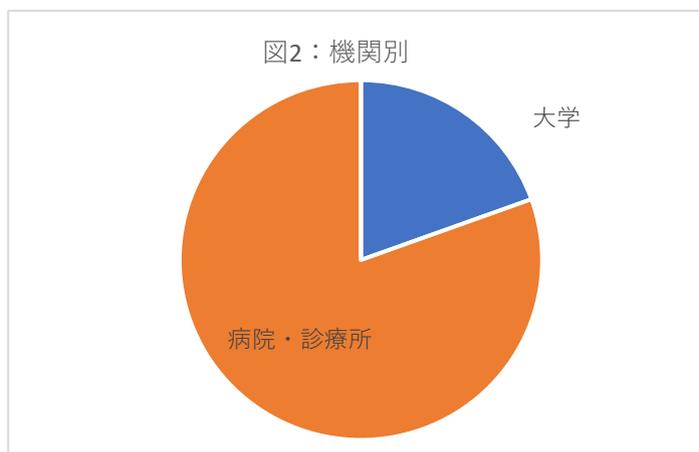
1.愛知県	27	66%
2.三重県	6	15%
3.岐阜県	8	20%
総計	41	100%



問2.貴機関についてお答えください。（あてはまるもの1つにチェックしてください）

表2：機関別 n = 41

1.大学	8	20%
2.病院・診療所	33	80%
3.その他	0	0%
総計	41	100%



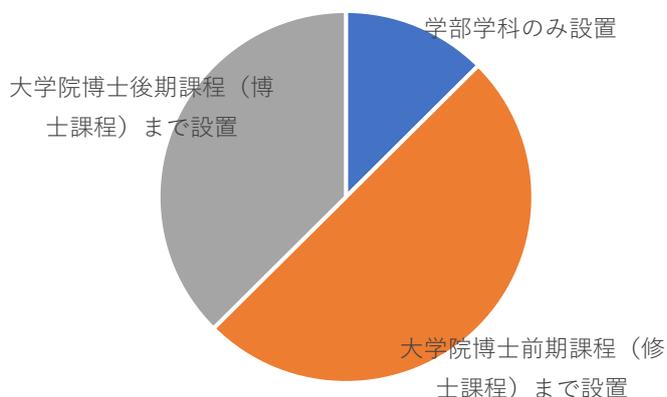
問3.貴学の看護系学部学科及び大学院の設置状況についてお答えください。

(あてはまるもの1つにチェックしてください)

表3：学部等の設置 n = 8

1.学部学科のみ設置	1	13%
2.大学院博士前期課程（修士課程）まで設置	4	50%
3.大学院博士後期課程（博士課程）まで設置	3	38%
総計	8	100%

図3：学部等の設置状況



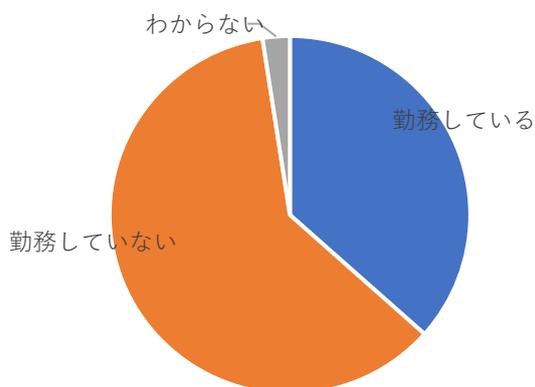
問4.貴機関における、「看護系」大学院博士課程修了者の勤務の有無についてお答えください。

(あてはまるもの1つにチェックしてください)

表4：勤務者の有無 n = 41

1.勤務している	15	37%
2.勤務していない	25	61%
3.わからない	1	2%
総計	41	100%

図4：勤務の有無

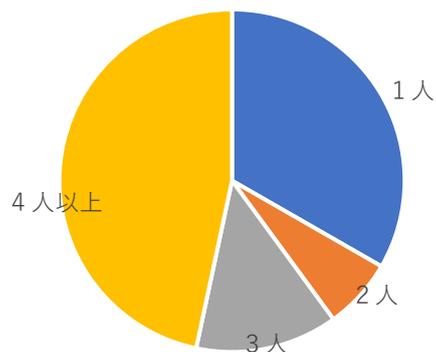


問5.勤務されている人数をお答えください。(あてはまるもの1つにチェックしてください)

表5：勤務者の人数 n = 15

1.1人	5	33%
2.2人	1	7%
3.3人	2	13%
4.4人以上	7	47%
総計	15	100%

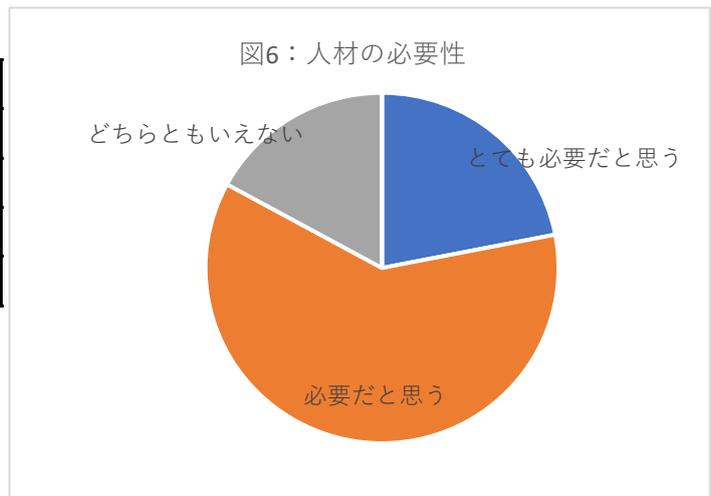
図5：勤務者の人数



問6.本学博士後期課程が養成する人材は、これからの社会にとって必要であると思われますか。
 (あてはまるもの1つにチェックしてください)

表6：人材の必要性 n = 41

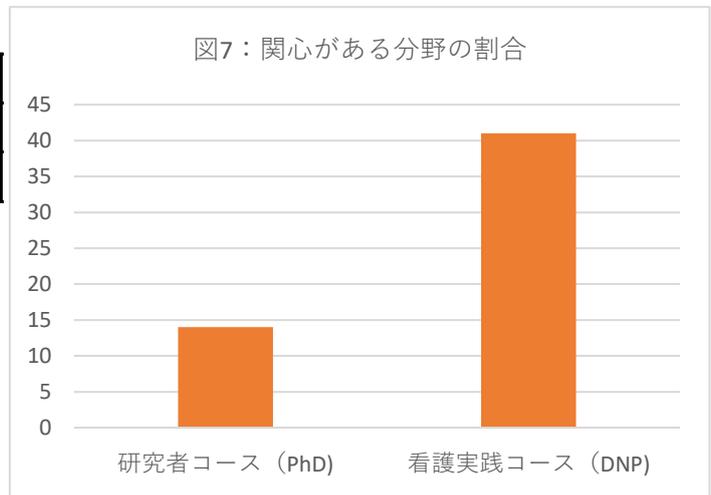
1.とても必要だと思う	9	22%
2.必要だと思う	25	61%
3.どちらともいえない	7	17%
4.必要でないと思う	0	0%
総計	41	100%



問7.本学博士後期課程のどの分野に関心がありますか。(複数回答可)

表7：関心がある分野 n = 55

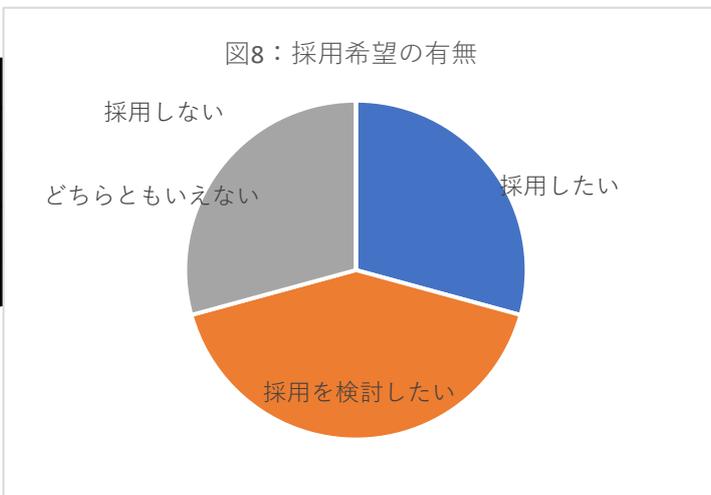
研究者コース (PhD)	14	25%
看護実践コース (DNP)	41	75%
総計	55	100%



問8.貴機関において、本学博士後期課程の修了生(看護学博士号取得者)を採用したいと希望しますか。
 (あてはまるもの1つにチェックしてください)

表8：採用希望の有無 n = 41

1.採用したい	12	29%
2.採用を検討したい	17	41%
3.どちらともいえない	12	29%
4.採用しない	0	0%
総計	41	100%

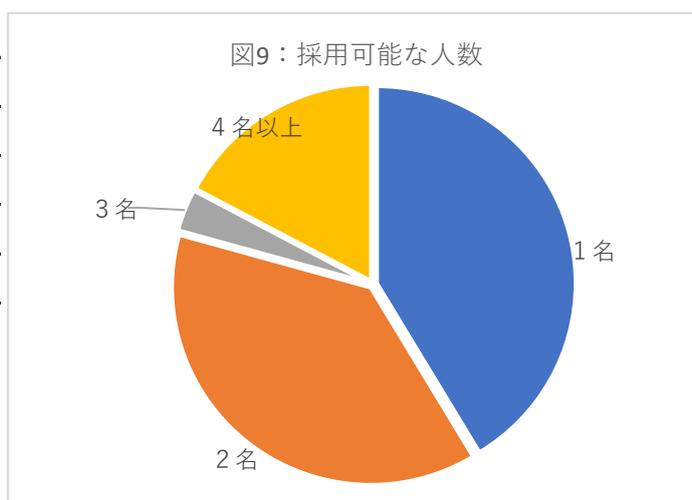


問9.現時点で採用が可能と思われる人数をご回答ください。

(あてはまるもの1つにチェックしてください)

表9：採用可能な人数 n = 29

1. 1名	12	41%
2. 2名	11	38%
3. 3名	1	3%
4. 4名以上	5	17%
総計	29	100%

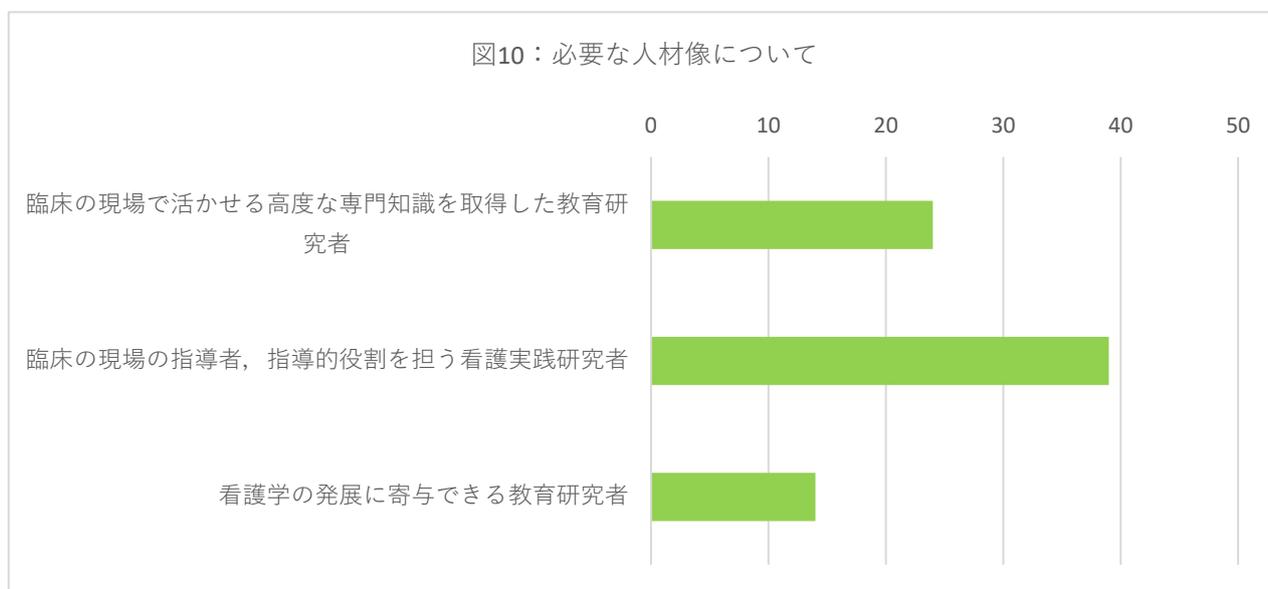


問10.今後の看護において、必要と思われる人材像を以下からお選びください。(複数回答可)

表10：必要な人材像について

n = 77

臨床の現場で活かせる高度な専門知識を取得した教育研究者	24	31%
臨床の現場の指導者、指導的役割を担う看護実践研究者	39	51%
看護学の発展に寄与できる教育研究者	14	18%
総計	77	100%



問11.本博士後期課程開設にあたり、ご意見、ご要望があれば自由にお書きください。

- ・ 講座が夜間だと退職せずに通学が可能になる。
- ・ 期待します。
- ・ 看護学の発展はとても大切で、今後様々起こりうる課題解決を図るために欠かせないことであると考えます。ただし、看護師の教育過程があまりに異なる場合、1つのチーム内で力を発揮してもらうためには、組織の成熟も欠かせないものと考えています。何に挑戦するために学ぶのか問いかけながら、病院側にも積極的に発信してください。よろしく申し上げます。
- ・ 看護管理だけでなく臨床における実践力のある人材がいればありがたいが、現在は看護師としての採用枠しかない。(NPの採用枠はできたので、今後検討の可能性はあるが)キャリアを活かした昇任試験短縮制度を利用し、早期に看護管理者として登用することは可能。臨床看護師の教育あるいは研究力の強化として期待したい。

関係各位

大変お世話になっております。

愛知医科大学（以下、本学）では看護学研究科に博士後期課程として、

研究者コース（PhD）に加えて、高度実践看護学コース（DNP）の設置を構想しています。

本調査は、愛知医科大学において博士後期課程の開設にあたり、

特に高度実践看護学コース（DNP）の開設について、

本学博士後期課程開設の必要性を確認し、実証することを目的として実施するものです。

大変お忙しいところ誠に恐縮ですが、期日までにご回答くださいますようお願い申し上げます。

期日：令和 5 年 12 月 19 日（火）から 28 日（木）

【回答方法】

下記 URL または QR コードから回答してください。

<https://forms.office.com/r/wvg4dGSva1>



愛知医科大学大学院 看護学研究科博士後期課程（設置構想中）に係るアンケート調査

愛知科大学では看護学専攻博士後期課程として、研究者コース（PhD）及び看護実践コース（DNP）の設置を構想しています。

1. 調査の目的

本調査は愛知科大学（以下、本学）において、博士後期課程の開設にあたり、特に高度実践看護学コース（DNP）の開設について、本学大学院研究科在学生及び本学卒業生等に需要を調査することで、本学博士後期課程開設の必要性を確認し、実証することを目的として実施するものです。

2. 調査の時期

令和5年12月19日（火）から12月28日（木）

3. 調査対象

本学大学院看護学研究科（修士課程）在学生、本学大学院看護学研究科（修士課程）修了生、愛知医科大学看護学部同窓会等

4. 調査方法

インターネット調査（Google フォームを活用し、専用 QR コードより読み込み回答）

5. 質問内容

問1 あなたの年齢を教えてください。（あてはまるもの1つにチェックしてください）

20 歳代

30 歳代

40 歳代

50 歳以上

問2 あなたの現在の職種を教えてください。（あてはまるもの1つにチェックしてください）

看護師

保健師

助産師

教員

その他

問3 あなたが現在勤務している職場を教えてください。（あてはまるもの1つにチェックしてください）

病院・診療所（病床数：300床未満）

病院・診療所（病床数：300～500床未満）

病院・診療所（病床数：500床以上）

訪問看護ステーション

高齢者福祉施設

行政機関

看護系大学・専門学校等

大学院生

その他

問4 あなたの取得している学位について教えてください。（あてはまるもの1つにチェックしてください）

修士取得済み

博士取得済み

修士課程に在学中

博士課程に在学中

該当しない

問5 学位の種類・名称を記載してください。（複数回答可）

問6 あなたは大学院博士後期課程への進学を希望していますか。（あてはまるもの1つにチェックしてください）

進学を希望している

進学に興味がある

わからない

進学は希望していない

問7 あなたは本学大学院博士後期課程が開設されれば、受験を希望しますか。（あてはまるもの1つにチェックしてください）

受験したい

受験を検討したい

受験したいと思わない

わからない

問 8 本学大学院博士後期課程のどの分野に関心がありますか。(複数回答可)

研究者コース (PhD)

看護実践コース (DNP)

問 9 本学大学院の博士後期課程 (設置構想中) への進学時期は、いつ頃を考えていますか。
(あてはまるもの 1 つにチェックしてください)

令和 7 年度 (開設予定年度)

令和 8 年度

令和 9 年度

令和 10 年度以降

検討中

問 10 本学大学院の博士後期課程 (設置構想中) を受験する、もしくは受験を検討したいと回答した理由は何ですか。(複数回答可)

臨床の現場で活かせる高度な専門知識の修得と研究力を高めたいので

博士の学位を取得し、キャリアアップを図りたいので

将来、臨床の現場の指導者、指導的役割を担いたいので

将来、教育者、研究者になりたいので

その他

問 11 本学大学院の博士後期課程 (設置構想中) 卒業後の進路について教えてください。

現職に復帰

別の病院に勤務する

別の大学に勤務する

その他

問 12 進学先を選ぶ際に重視する点を教えてください。(複数回答可)

看護実践コース (DNP) がある

指導を受けたい教授・教員がいる

奨学金が受けられる

授業料・入学金が妥当な金額である

働きながら学べる

施設や設備が整っている

知名度が高く、ブランド力がある

夜間・土曜日開講している

長期履修制度がある

遠隔授業が利用できる

その他

問 13 あなたの居住地を教えてください。（あてはまるもの1つにチェックしてください）

愛知県

三重県

岐阜県

その他の他都道府県

問 14 愛知県内の市町村を教えてください。

問 15 都道府県名を教えてください。

問 16 本学博士後期課程開設にあたり、ご意見、ご要望等があれば自由にお書きください。

令和6年1月31日

愛知医科大学大学院看護学研究科

研究科長 坂本 真理子

愛知医科大学看護学研究科博士後期課程（設置構想中）に係る

アンケート調査の実施について（ご依頼）

拝啓 時下ますます御清祥のこととお慶び申し上げます。平素は大変お世話になっており厚く御礼申し上げます。

さて、本学では看護学研究科に博士後期課程として、研究者コース（PhD）及び高度実践看護学コース（DNP）の設置準備を進めているところです。このことに伴い、広くご意見等をお聞きし、博士後期課程の開設に向けて教育内容の充実を図りより魅力あるカリキュラムに繋げることを目的としたアンケート調査の実施を計画いたしました。

つきましては、アンケート調査を下記のとおり実施いたしますので、ご多忙の折誠に恐縮ですが、ご配慮くださるようお願い申し上げます。

末筆ながら、貴殿のますますのご活躍をお祈り申し上げます。

敬 具

記

1. 調査内容：採用意向に係るアンケート調査（看護系大学・病院対象）

※施設単位でのご回答をお願いいたします。

2. 調査の回答期間：令和6年2月1日（木）から15日（木）
3. 問合せ先：愛知医科大学看護学部教学課(担当：志知・田中・成田)

〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1

TEL (0561)76-7183 [直通] メール:hakase@aichi-med-u.ac.jp

4. 回答方法：下記 URL または QR コードから回答してください。

<https://forms.office.com/r/BL7THr9Qxx>



愛知医科大学大学院 看護学研究科博士後期課程（設置構想中）に係るアンケート調査

愛知科大学では看護学専攻博士後期課程として、研究者コース（PhD）及び看護実践コース（DNP）の設置を構想しています。

1. 調査の目的

愛知医科大学（以下、本学）では看護学研究科に博士後期課程として、研究者コース（PhD）に加えて、高度実践看護学コース（DNP）の設置を構想しています。

本学では貴職における人材需要についての率直な考えをお聞きし、大学院看護学研究科博士後期課程の開設の際には、広く看護職者や看護教員を大学院生として受け入れたいと考えています。

このアンケートの回答は、設置構想にあたっての統計資料としてのみ活用するものであり、個人を特定することや他の目的に使用することは一切ありません。

大変お忙しいところ誠に恐縮ですが、期日までにご回答くださいますようお願い申し上げます。

2. 調査の時期

令和6年2月1日（木）から2月15日（金）

3. 調査対象

愛知県・三重県・岐阜県の看護系大学および病院施設

4. 調査方法

インターネット調査（Google フォームを活用し、専用 QR コードより読み込み回答）

5. 質問内容

問1 貴機関の所在地をお答えください。（あてはまるもの1つにチェックしてください）

1.愛知県

2.三重県

3.岐阜県

問2 貴機関についてお答えください。（あてはまるもの1つにチェックしてください）

1.大学

2.病院・診療所

3.その他

問3 問2で1の場合、貴学の看護系学部学科及び大学院の設置状況についてお答えください。
(あてはまるもの1つにチェックしてください)

1. 学部学科のみ設置
2. 大学院博士前期課程(修士課程)まで設置
3. 大学院博士後期課程(博士課程)まで設置

問4 貴機関における、「看護系」大学院博士課程修了者の勤務の有無についてお答えください。
(あてはまるもの1つにチェックしてください)

1. 大学院博士後期課程修了の教員又は看護職員が勤務している
2. 大学院博士後期課程修了の教員又は看護職員は勤務していない
3. わからない

問5 問4で1の場合、勤務されている人数をお答えください。

1. 1人
2. 2人
3. 3人
4. 4人以上

問6 本学博士後期課程が養成する人材は、これからの社会にとって必要であると思われますか。
(あてはまるもの1つにチェックしてください)

1. とても必要だと思う
2. 必要だと思う
3. どちらともいえない
4. 必要でないと思う

問7 本学博士後期課程の、どの分野に関心がありますか。(複数回答可)

1. 研究者コース(PhD)
2. 看護実践コース(DNP)

問8 貴機関において、本学博士後期課程の修了生(看護学博士号取得者)を採用したいと希望しますか。
(あてはまるもの1つにチェックしてください)

1. 採用したい
2. 採用を検討したい
3. どちらともいえない
4. 採用しない

問9 問8で、1か2の場合、現時点で採用が可能と思われる人数をご回答ください。（あてはまるもの1つにチェックしてください）

1. 1名
2. 2名
3. 3名
4. 4名以上

問10 今後の看護において、必要と思われる人材像を以下からお選びください。（複数回答可）

1. 臨床の現場で活かせる高度な専門知識を修得した教育研究者
2. 臨床の現場の指導者、指導的役割を担う看護実践研究者
3. 看護学の発展に寄与できる教育研究者

問11 本学博士後期課程開設にあたり、ご意見、ご要望等があれば自由にお書きください。